

▼生徒を指導する倉谷さん。岩国工業高校のグラウンドで



倉谷さんが変わるきっかけとなったのは、岩工を卒業した後、新たなチームで伸び伸びと見違えるような活躍をする教え子たちの姿でした。「自分が押さえつけることで、失敗を恐れ無難なプレーをする選手ばかりになっていた」ことに気が

は、自分の指導について来られない生徒が悪いと思っていた」と振り返ります。倉谷さんが変わるきっかけとなったのは、岩工を卒業した後、新たなチームで伸び伸びと見違えるような活躍をする教え子たちの姿でした。「自分が押さえつけることで、失敗を恐れ無難なプレーをする選手ばかりになっていた」ことに気が

全国高校選抜、全国高校総体とともに圧勝で制し、公式戦無敗で二冠に輝いた岩国工業高校ハンドボール部。監督を務めるのは倉谷康彦さんです。倉谷さんが岩工の指揮を執り始めたのは平成6年。低迷していた名門の復活を託されての就任でした。「プレッシャーはすごかった」という倉谷さん。基本を中心にした厳しい指導で、4年

連続で全国への切符を獲得、平成10年には総体準優勝の好成績を収めました。一方、より良い成績を求めて厳しく指導する倉谷さんについていけず退部する生徒が続出。時を同じくして、県予選で敗退し全国大会に出場できない年が続くようになりました。「指導者としての引き出しが少なく、選手の能力を引き出せていなかった。でも当時は、自分の指導について来

が付いたそうです。それからは、選手の個性や遊び心を大事にする指導に切り替え、練習メニューにも工夫を凝らしました。「見ればどうしても怒ってしまうので」と練習方針を立てた上で、選手の自主性に任せる部分も増えました。「自分が変わり、生徒が信じてついてきてくれた」ことで全国を4度制覇。岩工を全国有数の強豪校へと押し上げました。



▲36年ぶり2度目の優勝を飾った今年の全国選抜大会



▲筑波大学時代の海外遠征の経験が指導に生きている(右から2番目)



強さの秘密は

「型にはめない」

Vol.90

倉谷 康彦さん
(柱野在住)

岩国工業高校保健体育教諭。ハンドボール部しかなかった柱野中学校で嫌々ハンドボールを始める。岩国高校、筑波大学では、ともに主将を務め全国大会出場に貢献。

